

電気事業における
生物多様性行動指針
～行動指針とその取組みについて～
(改定版)

2020年6月
電気事業連合会

目次

| | |
|---|---|
| 第1章 電気事業と生物多様性との関わり～行動指針改定の経緯と目的～ | 1 |
| (1) 生物多様性に係る我が国の状況 | 1 |
| (2) 電気事業における生物多様性への取組み | 1 |
| 第2章 電気事業における生物多様性行動指針 | 2 |
| 第3章 電気事業における生物多様性行動指針に対応した取組み事例 | 3 |

第1章 電気事業と生物多様性との関わり～行動指針改定の経緯と目的～

(1) 生物多様性に係る我が国の状況

我が国では、1992年の国連環境開発会議（リオサミット）において採択された「生物多様性条約」に基づく「生物多様性国家戦略」の策定、2008年の「生物多様性基本法」の制定により、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する施策について基本的な事項が定められました。

このような状況を踏まえ、一般社団法人日本経済団体連合会（以下「経団連」）においては、2009年3月に「経団連生物多様性宣言」及び「行動指針」を公表しました。

その後経団連は、2015年に国連が採択した「SDGs（持続可能な開発目標）」への貢献を重要課題に掲げ、「Society 5.0（革新技術の最大限利用による経済発展と社会的課題の解決の両立）を通じたSDGsの達成」に取り組み始めたことや、2010年の「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」で採択された「愛知目標」の最終年が2020年に迫り「ポスト愛知宣言」の議論が加速していく中、2018年10月に「経団連生物多様性宣言」及び「行動指針」を改定しました。

(2) 電気事業における生物多様性への取り組み

電気事業連合会（以下「電事連」）では、2010年4月に「電気事業における生物多様性行動指針」を策定し、公表しました。

電気事業では、事業の実施にあたって、行動指針に基づき「S+3E」の観点から、最適なエネルギーミックスの追求及び需給両面での取り組みによる温室効果ガス排出削減、環境影響評価や地域の特性に応じた環境保全措置などによる地域レベルでの生物多様性への配慮などに積極的に取り組んできました。また、森林保全や環境教育活動などの生物多様性を含む社会貢献活動にも精力的に取り組んでいます。これらの取り組みを通じて、生物多様性に及ぼす影響を最小限にとどめると同時に、自然の恵みを持続可能な方法で利用することを心がけています。

今般、SDGsの様々なゴールの達成や、低炭素・脱炭素化、資源循環、生物多様性保全といった、幅広い環境活動を取り込む「事業活動と環境対策の統合」いわゆる「環境統合型経営」が求められるようになったことを踏まえ、今回「電気事業における生物多様性行動指針」を改定しました。

今後ともこの指針に基づき、自然の恵みに感謝しつつ、持続可能な事業活動を目指します。

第2章 電気事業における生物多様性行動指針

電事連関係各社は、電気事業者としてのみならず国際社会及び地域社会の一員として、生物多様性が持続可能な社会の重要な基盤であることと、その実現を目指すことが責務であることを認識して、生物多様性に資する以下の事業活動を積極的に推進し、もって持続可能な社会の実現を目指します。

I. 生物多様性に資する環境統合型経営を推進する

- ① 電力供給を行う上で、生物多様性に配慮すると同時に、事業活動がSDGsの様々なゴールの達成に及ぼす効果を認識し、企業経営を行う。
- ② 電気事業全体での温室効果ガス削減に向けて、安全確保を大前提とした原子力発電の活用や再生可能エネルギーの導入拡大、火力発電の更なる高効率化と適切な維持管理及び低炭素社会に資する省エネ・省CO2サービスの提供等に最大限取り組む。
- ③ 循環型社会の形成と環境負荷低減に向けて、資源の有効利用や廃棄物最終処分量削減等の3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動に継続的に取り組む。
- ④ 生物多様性への取り組みについて、幅広いステークホルダーに対し、分かりやすい情報の発信や対話を、適宜適切に行う。

II. 生物多様性に資する行動に着実に取り組む

- ⑤ 事業活動にあたっては、生物多様性への影響を適切に把握・分析・評価し、その保全と持続可能な利用に努める。
- ⑥ 生物多様性の保全と持続可能な利用に資する技術・研究開発を推進し、その普及に努める。
- ⑦ 森林保全や環境教育などの、社会的価値の創造につながる活動に、自主的かつ積極的に、また地域の関係機関やお客さまと連携・協働しながら取り組み、生物多様性の保全に努めるとともに、SDGsの達成に貢献する。
- ⑧ 社内外での環境教育や環境保全活動への参加を通じて、従業員の生物多様性に対する意識の向上を促す。
- ⑨ お客さまや次世代層への環境教育活動を実施するとともに、地域で行う教育活動に参加・協力することにより、生物多様性を育む意識を広く普及させる。

第3章 電気事業における生物多様性行動指針に対応した取組み事例

電事連関係各社は、環境問題を経営の重点課題として位置付け、地域環境との共生に積極的に取り組んできました。これらの取組みは、生物多様性にも密接的に関与している事から、今後も更なる充実に努めていきます。

本章では、電事連関係各社が実施している、生物多様性行動指針に対応した取組み事例を紹介いたします。詳細については、以下に示す各社のホームページをご覧ください。

| 会社名 | 各社のホームページ及び各社からのコメント |
|------------------|---|
| 北海道電力株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・建設時の環境保全への配慮や、生態系への影響を軽減する対策品の設置等、雄大な土地と多様な野生生物に恵まれた北海道の自然と共生する事業運営に努めております。 <p>https://www.hepco.co.jp/corporate/environment/local_env_protect/biodiversity_conservation.html</p> |
| 東北電力株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「水辺環境」の創造（ビオトープ） ➢ 「森の恵み」の創造（海岸防災林復活活動、伐採木の活用等） ➢ 生き物の暮らしを守る（ハヤブサとの共生、鳥類保護対策、魚道の設置、アニマルパスウェイ等） ➢ 「希少な動植物」を守る（東通原子力発電所構内の湿原） ➢ 地域とともに緑を作る（緑のカーテン運動） ➢ 環境教育の推進（PR施設等の紹介） <p>https://www.tohoku-epco.co.jp/enviro/seibutsu/index.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性に配慮した発電所構内環境整備 <p>http://www.tohoku-epco.co.jp/enviro/envirodata/download/section2019_05.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災で被害を受けた海岸林の再生 <p>http://www.tohoku-epco.co.jp/enviro/ecolog/re_bousairin/</p> |
| 東京電力ホールディングス株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性に向けた取り組みについて。 <p>http://www.tepco.co.jp/about/csr/symbiosis/biodiversity.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾瀬を守る取り組みについて 尾瀬国立公園の土地の約16,000ha（約4割）を所有し、保護管理を行うことで、生物多様性を保全しています。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 緑を守る取り組み（木道の敷設・湿原回復等） ➢ 水を守る取り組み（浄化槽の設置） ➢ 空気を守る取り組み（太陽光発電の導入） ➢ 森を守る取り組み（山林管理・森林認証取得） <p>http://www.tepco.co.jp/oze/mamoru/index-j.html</p> |
| 中部電力株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域性に配慮した在来植物を用いた緑化手法の開発 ・水力発電設備の法面補強工事における在来種植生マットの採用、施工 ・発電所緑地における樹木や草花の管理 ・人工林の間伐作業に必要な知識・技能を習得し、森林保全活動を実践できる「ちゅうでんフォレスター」の育成 ・自然体験プログラムの作り方・進め方・安全管理等の基本的事項について実習を交え学んだ「ちゅうでんインタープリター」の育成 <p>https://www.chuden.co.jp/csr/environment/env_report/</p> |

| 会社名 | 各社のホームページ及び各社からのコメント |
|-------------|---|
| 北陸電力株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・森林保全活動「水の恵みをありがとう！森に恩返し活動」や、事業所周辺および海岸等の清掃を継続的に実施しています。 http://www.rikuden.co.jp/kankyo-ene/ |
| 関西電力株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・関西電力グループレポート2019（生物多様性の保全に配慮した事業活動） ・自然と共生する世界（関西電力グループの生物多様性への取り組み） https://www.kepcoco.jp/share_corporate/pdf/report2019_12.pdf https://www.kepcoco.jp/sustainability/kankyou/biodiversity/protect.html |
| 中国電力株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・発電所における防波護岸前面の海域への人工リーフ（浅瀬）設置による魚介類の生育環境の創出 ・発電所構内における日本初の人工巣箱による「ハヤブサ」の繁殖 ・環境アセスメントの実施など地域特性に応じた生物多様性への配慮 https://www.energiaco.jp/corp/active/csr/kankyou/index.html |
| 四国電力株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・発電所の設置時における郷土種の植栽による周辺環境との調和 ・発電所の建設時における環境アセスメントの実施 ・地元自治体と協働した森林保全活動の実施 ・発電所の前面海域における代替藻場の造成 https://www.yonden.co.jp/energy/environment/biodiversity/index.html |
| 九州電力株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の皆さまと一緒に生物多様性や自然景観の保全などに取り組む環境保全活動「こらぼらQでんeco」を九州各地で展開 ・次世代を中心に、さまざまな「学び」と「体験」の場を提供する環境・エネルギー教育「Qでんみらいスクール」を展開 ・環境省や竹田市、九重の自然を守る会など地域の方々との協働により、野焼き活動や希少植物保護活動、隣接する平治岳（当社社有地）のミヤマキリシマ植生保護活動を実施 http://www.kyuden.co.jp/library/pdf/csr/2020/sustainability_report_all_2020_b.pdf |
| 沖縄電力株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域の自然植生を構成する在来種を主体とした発電所の緑化 ・発電所前面海域におけるサンゴの植え付け ・サンゴ保全プロジェクト「チーム美らサンゴ」への参画 http://www.okiden.co.jp/active/eco/asuhe/ |
| 電源開発株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ・発電設備の計画・設計段階では、環境影響評価を踏まえ、生息・生育環境や生態系への影響に配慮した環境保全措置を実施 ・運転中の発電所等においては、希少種をはじめとする発電所周辺に生息・生育する動植物およびその生息域の保全を推進 https://www.jpowers.co.jp/sustainability/environment/report/ |
| 日本原子力発電株式会社 | http://www.japc.co.jp/approach/environment/report.html |